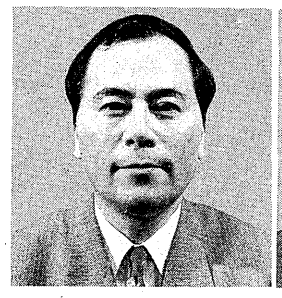
島根全県区

竹下氏、10万票の大台

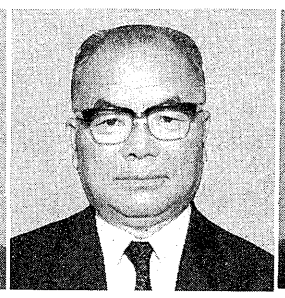


錦織　淳氏

東京大学法学部卒。司法試験合格後、昭和47年弁護士登録。第2東京弁護士会副会長、日弁連常務理事など歴任。法律事務所代表。日本音楽事業者協会顧問。平田市平田町出身。出雲市姫原町421―2（本籍・東京都世田谷区玉川田園調布1―4）。当選1回。

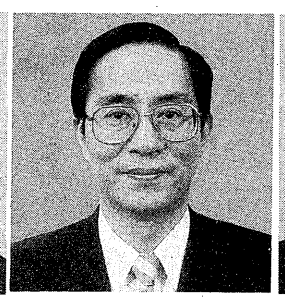
桜内　義雄氏

慶応大学経済学部卒。通産（2回）、農林、建設、外務の各大臣、党政調会長（2回）、党幹事長を歴任。前衆院議長。全国山村振興連盟理事、体力づくり国民会議議長などを務める。東京都港区東麻布2―17―11（本籍・同）。当選参院1回、衆院17回。



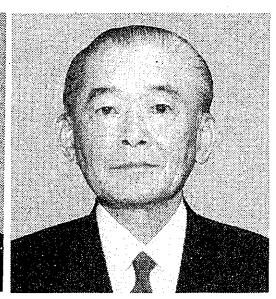
石橋　大吉氏

旧能義村立中学校卒。安来市役所から自治労中央執行委員、同県本部委員長、県評議長などを歴任。衆院農林水産委員、同労働委員を務めた。現在、党政審副会長、党県本部特別執行委員。松江市南平台26―20（本籍・同717―25）。当選3回。



細田　博之氏

東京大学法学部卒。通産省経済協力企画官、石油公団ワシントン事務所長、物価対策課長を経て細田吉蔵元代議士秘書に。平成2年に初当選。通産エネルギー問題研究所理事長、政治改革調査特別委員。松江市堂形町738（本籍・同町881）。当選2回。



竹下　登氏

早稲田大商学部卒。中学校教員、県連合青年団長、県議などを経て昭和33年初当選。内閣官房長官、建設相、大蔵相、党幹事長を歴任。62年11月から平成元年5月まで首相。党最高顧問。東京都世田谷区代沢3―17―10（本籍・掛合町掛合955）。当選13回。

島根全県区当選者

竹下氏がトップ、新党ブームで錦織氏も当選―。自民党政治の継続か、非自民党勢力の新政権か、体制選択を最大の争点に、政界再編の行方を占う第四十回衆院総選挙と、最高裁裁判官国民審査の投票が十八日、全国一斉に行われ、島根全県区（定数五）は即日開票の結果、竹下登（無所属、前）、細田博之（自民、前）、石橋大吉（社会、前）、桜内義雄（自民、前）、錦織淳（さきがけ、新）の五氏が当選した。政界不祥事で世論の批判を浴びた竹下氏は前回票から大きな目減りはなく、八

さきがけ錦織氏初当選

石橋氏、社会議席守る

開票は午後七時半ごろから県内五十九市町村ではぼ一斉に始まった。午後八時五分に布施村で確定票が発表され、次いで弥栄村などで開票が終了。都市部の開票作業も午後十時半ごろまでに大半が終わり、大勢が判明した。

八回連続九度目のトップ当選を果たした竹下氏は、佐川急便・皇民党事件の潔白を訴え、「みそぎ」をかけた戦いだった。危機感から二十四年ぶりに県内に張り付いて選挙戦を展開。選挙期間中に小集会を計二百三十回、三万人の支持者に直接話し掛ける戦術で、後援会組織の引き締めに成功。午後八時半にはいち早く当選を確実にした。前回まで五回連続（通算六回）続いた十万票台の得票を維持。目減りを最小限に食い止め、全県的な支持を集めて十三回目の当選を果たした。

新党さきがけ新人の錦織氏は、華々しいデビューを遂げた。組織がほとんどなく、手探りの戦いだったが、公示直前に党公認を取り付け、都市部を中心に急ピッチで浸透。自民分裂後の政界混乱が有利に働き、「古い政治の打破」を訴えたことで、新党ブームを起こした。体制選択を迫る今回選挙で、既成政党から離れた票の受け皿となった役割は大きく、県内にも自民党政治の継続に難色を示す有権者が多いことを裏付けた。

再選を目指し「世代交代」を前面に押し出した細田氏は、午後九時五分に当確を決めた。前回より二つ上の二位で、堂々の再選。二期目は厳しいとのジンクスに加え、有力新人の参入で初当選の得票から五千票の減だったが、序盤の優勢を終盤まで保った。若さと行動力を武器に「世代交代」を正面に掲げ、自民党を担う若手の一人として地元の期待が強いことを印象付けた。

桜内氏は前回より大きく票を落とし、当選を確実にしたのは午後十時前。しかし、最後には厚い支持基盤の威力を発揮。県東部の地盤を早くから固めたのが強みで、苦戦ながら前衆院議長の面目を保った。竹下氏と同じく、久しぶりの県内密着型の選挙で、健在ぶりを支持者に示し、今回は本人と組織の高齢化問題を乗り切った。

石橋氏は社会党公認を一人に絞ったのが功を奏し、全県で支持労組を手堅くまとめ、前回票を上回る得票で議席を守った。序盤から優勢が伝えられたが、当確が出たのは午後九時二十分。前回、地盤でなかった石見部で得票を伸ばし、東部の都市部が開票されるのに従って一気に抜け出した。

しかし、社会党としての得票は、推薦候補の阪本氏と合わせても八万五千票。前回の公認二人の合計十二万二千票から大幅に減らし、全国的な有権者の社会党離れが島根にも及んでいることを示した。

細田氏とともに再選を狙った亀井氏は、地盤の石見部をはじめ、都市部で前回票を減らしたのが響き、涙をのんだ。前回は無所属で消費税反対を訴え幅広い支持を集めたが、自民党公認で臨んだ今回は、無党派層を錦織氏に奪われ、二万票近くも得票をダウンさせてしまった。

唯一の女性候補、中林氏は「金権腐敗政治の一掃」を主張し、竹下氏批判を訴えたが、最後まで「よし子ブーム」は不発。得票は前回並みにとどまり、返り咲きは果たせなかった。

新人の阪本氏は、社会党公認が得られなかったハンディを、最後まで取り戻せなかった。吉原米治元社会党衆院議員の後継指名を受け、同氏の地盤だった石見部などで一定の支持を獲得したが、二万票にも届かなかった。

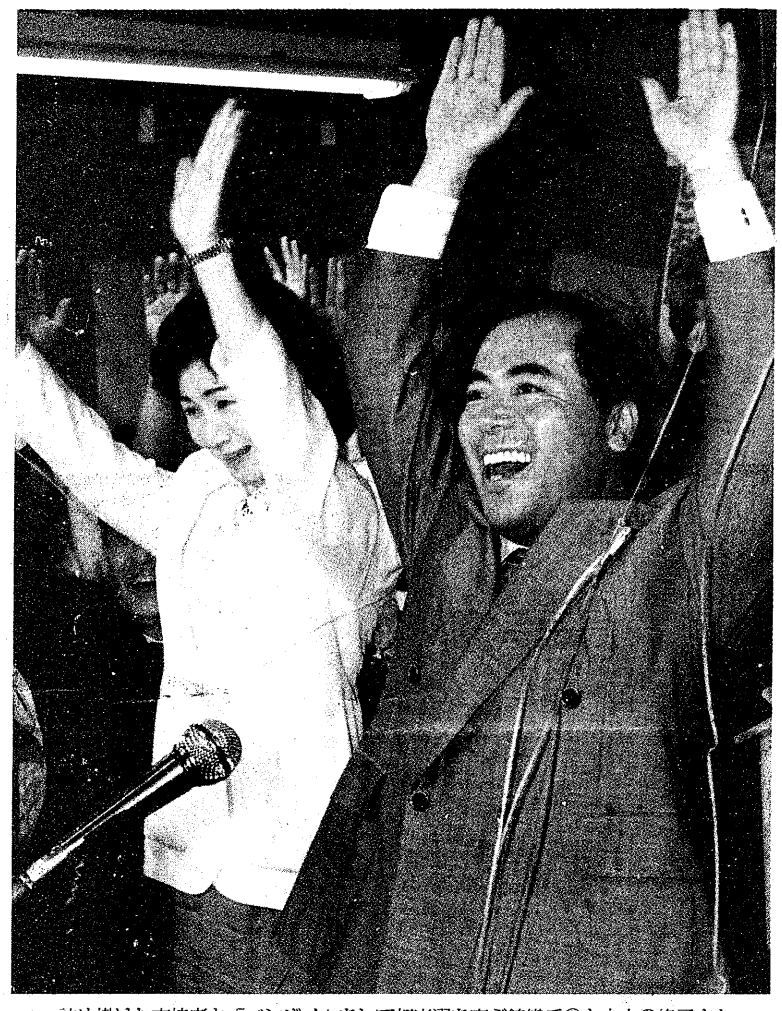
南氏は独自の戦いに終わった。

回連続の一位当選で「逆風」を跳ね返した。新人の錦織氏は新党ブームの追い風に乗り、既成政党批判票を独占する形で、初当選を果たした。亀井氏は県東部のほか地盤の石見部でも得票が伸びず、再選を阻まれた。返り咲きを狙った中林佳子氏（共産、元）、初挑戦の阪本清氏（無所属、新）は及ばなかった。投票率は八一・五六％で、前回（平成二年二月）の八六・四五％を下回った。（22、23面に関連記事）

島根全県区開票結果

（23時20分、選管最終）

当	105,296票	竹下　登	69	無前
当	72,277票	細田　博之	49	自前
当	69,037票	石橋　大吉	61	社前
当	63,905票	桜内　義雄	81	自前
当	57,962票	錦織　淳	47	さ新
次	55,584票	亀井　久興	53	自前
	42,744票	中林　佳子	47	共元
	16,188票	阪本　清	40	無新
	1,255票	南　悦雄	49	無新



詰め掛けた支持者と「バンザイ」をして初当選を喜ぶ錦織氏㊨と夫人の峰子さん
―18日午後10時半、松江市西川津町の選挙事務所

〈解説〉保守風土に変化も

際立った竹下氏の強さ

佐川急便・皇民党事件で世論の批判を浴び、得票が注目されていた竹下元首相が、前回並みの十万票台でトップ当選、地元での支持の強さを見せつけた。今選挙を自らの「みそぎ選挙」と位置付け、疑惑の「潔白」を前面に掲げて戦った選挙結果だけに、支持者を除く県民の多くは、その評価に複雑な思いを残すことになった。半面、新しい政治の実現を訴えた錦織氏の勝利は、「保守王国・島根」と言われるほど各代議士の系列化が浸透している政治風土に、変化の兆しが起き始めていることをうかがわせた。

これまで七回連続トップ当選を続けていた竹下氏の当選は、予想通りの結果と言える。ざっと三万人を数える後援会や、系列地方議員の多さ、集票マシンときき言われる土木建設業界の支持に加え、二十四年ぶりに本人が地元に張り付いて、きめ細かく支持者を固める選挙を展開。批判の逆風を乗り切った。

竹下氏への根強い支持は、国の公共事業の獲得など同氏がこれまで地元に果たしてきた役割への積極的な評価であり、強力な政治家に頼らざるを得ない地方の弱小県が共通して抱える現実でもある。これが全国からみれば利益誘導、地元民主主義といわれる構図に映ってしまうことにもなる。

半面、今回の選挙では、竹下氏を明確に批判して選挙を戦った中林、阪本両氏が合わせて六万票余りを獲得。さらに先の国会で政治改革を「放棄」した自民党が一議席を失い、錦織氏が「変化」期待票を集めた点を考慮すれば、政治改革を望む県民の期待が、これまで以上に高まっていることを端的に示している。

その竹下氏への世論批判が発端の一つになった政治改革論議が自民党分裂・新党結成という流れに発展。島根でも新党ブームや既成政党批判の受け皿役を錦織氏が演じ、保守系の浮動票の新たな行き場をつくった。錦織氏は、支援組織の体裁を整える間もなく選挙戦が開幕し、当初の思惑は外れたが、相次ぐ新党誕生が逆に追い風を誘った。選挙の争点の比重が、当初の政治改革から政界再編に移

鳥取全県区（最選終）

当	137,025票	石破　茂	36	無前
当	69,508票	平林　鴻三	62	自元
当	59,497票	野坂　浩賢	68	社前
当	48,793票	相沢　英之	74	自前
次	24,579票	佐々木康子	55	共新

石破氏が13万票

平林氏2位で返り咲く

衆院選鳥取全県区（定数四）は即日開票の結果、石破茂氏（三六）＝無所属・前＝、野坂浩賢氏（六八）＝社会・前＝、相沢英之氏（七四）＝自民・前＝の三人が連続当選を果たし、平林鴻三氏（六二）＝自民・元＝が返り咲いた。内閣不信任案に賛成して無所属出馬となった石破氏は、政治改革が追い風となって全市町村で票を伸ばし、空前の十三万七千票余りを獲得、二位に七万票近くの大差をつける圧倒的強さで連続トップ当選を飾った。無所属候補の一位当選は戦後初。平林氏は〝浪人中〟の草の根的運動が功を奏し、前回より票を伸ばした。社会党唯一の野坂氏は全国的な社会党退潮傾向もあり、前回より票を減らし、相沢氏は政治改革先送りの自民党への逆風で、前回に引き続き最下位当選に甘んじた。佐々木康子氏（五五）＝共産・新＝は全市町村で前回の共産党候補の得票を上回ったが、届かなかった。

候補者数が戦後最少で事実上無風状態となったことから、投票率は七三・七〇％（男七二・六七％、女七四・六一％）と前回（八四％）を大きく下回り、昭和二十二年の第二十三回（七二・四％）に次ぐ戦後二番目の低い記録となった。八〇％台は戦後四回目。

鳥取　記者

食事付
高齢者用住宅

「ケアハウス」を知っていますか？

全国一の高齢化率である本県では、高齢者が健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる長寿福祉社会を築いていくことが重要な課題となっています。

ケアハウスは、こうした観点に立って、住まいとしての機能や個人のプライバシーに配慮した高齢者向けの新しいタイプの住宅です。

本県においては、ケアハウスを、高齢者保健福祉2000年プランに基づき計画的に整備するよう取り組んでいます。

名称	はなうみ苑	夢楽の郷
開設日	平成5年5月1日	平成4年6月1日
所在地	松江市比津が丘3の5の58	松江市山代町933-9
電話番号	0852-27-3400	0852-31-9036
設置主体	社会福祉法人 みずうみ	社会福祉法人 しらゆり会
定員	50人	50人

【はなうみ苑】

【夢楽の郷】

1．ケアハウスとは

食事付き高齢者マンションです。食事、入浴をはじめとした日常生活上必要なことについて便宜を図るとともに、個人の自由とプライバシーを大切にしています。

また、設備や構造等が高齢者にとって住みやすいよう工夫され、万一の時にも対応できるよう24時間体制を整えています。

なお、入居者の希望により、外部よりホームヘルプサービス等の在宅福祉サービスも利用できます。

2．入居対象者は

① 原則として60歳以上で、独立して生活するには不安があり、家族による援助を受けることが困難な高齢者の方（ご夫婦で利用される場合は、どちらかが60歳以上であれば結構です。）

② ケアハウス毎に決められた利用料（生活費、事務費、管理費等の合計額）を負担できる方。（利用される方の収入に応じて違います。）

島根県健康福祉部高齢者福祉課